



# 2019年度 出前講座報告書

NO.8

2020年1月20日 郡山市保健所

## 災害保健活動の実践から学ぶ地域保健活動の 原点と保健師の役割

～Social・Capitalを醸成する健康づくり&地域づくり活動～

震災後の活動において求められた、**Social Capital(SC)**醸成・再構築する活動は、平時における地域保健活動として実践する必要性の認識が高まっています。

そこで、今回は地域保健活動におけるSCの現状と変遷、さらには持続可能な開発目標**Sustainable Development Goals (SDGs)**の視点を意識しての今後の活動のあり方について学ぶことを目的に開催しました。



### 講義の様子



#### 講師紹介



福島県立医科大学医学部  
災害公衆衛生学看護学講座  
教授 末永カツ子

#### 略歴

- 自治体保健師として保健所、児童相談所、発達相談支援センター等に勤務。
- 東北大学大学院教育学研究科後期博士課程修了(教育学博士)。
- 東北大学医学系研究科 地域ケアシステム看護学分野教授。
- 長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害被ばく医療科学共同専攻教授。

#### 専門領域

- 公衆衛生看護学
- 地域ケアシステム論

講義では、震災の教訓を踏まえ国から示された保健師活動指針での**SC**の位置づけを確認し、災害時に大きな役割を果たした**SC**を含む地域特性を活かし協働して活動を展開することの重要性を学びました。また、公衆衛生分野でも注目されてきた**SDGs**の概念について学び、この視点を導入しまちづくりを推進する郡山市の健康づくりの専門職として、自身のありたい姿や今後の活動の方向性を見つめ直す機会となりました。

## グループワークの様子

台風19号での災害対応の実際について共有しました。また本日の講義の内容を踏まえ、地域のニーズや課題に対応できる地域保健活動を展開していくためのというテーマで意見交換を行いました。各グループで出された実行計画や具体策について講師からは、熱いメッセージが送られました。



▶グループワークでは、これからの地域保健活動について意見交換すると共に課題についても共有しました。

## アンケート集計結果

参加者は28名、アンケート回収は28名でした。

	そう思う*
<b>研修の資料や進行について</b> 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった	96% 93% 93%
<b>講義について</b> 講義内容が理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う	93% 93% 96%
<b>話し合いについて</b> 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	93%
<b>あなたご自身について</b> 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	68% 68%

## 参加者の感想(一部抜粋)

- 自分の活動を客観的に見直す機会となりました。
- 保健師活動の原点、役割をふりかえることができた。SDGsの関連も学べたので良かったと思う。
- 保健師さんと共通の考え方、事業への取り組みがありますが、今後は、より地域住民によりそった取り組みが出来る様にしたいです。

## 復習ポイント

- ✓ 地域保健活動における Social Capital 醸成と地域づくりについて
- ✓ これまでの災害保健活動で求められる地域保健活動の原点とは

\*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計